

通学路の確保さえもできないところに、なぜ移転か？

6月議会に、市立学校設置条例の一部改定の議案が提出されました。この条例改定は、粉河中学校を現有地から粉河駅南西JR和歌山線と国道24号線に挟まれたところに移転するため、学校の住所変更を行うためのものです。

この問題については、移転反対運動がおこり、裁判(公金の支出差し止め)にもなり、現在大阪高裁で係争中です。

日本共産党議員団は、この粉河中学校の改築・移転については、移転先と現有地とを比べて、

①教育環境、②通学路の安全確保、③災害時の避難場所として適切かなどを検討し、「学校の設置場所としてふさわしくない」という結論になり、その立場から意見を述べてきました。

今回の条例改定議案の採決での態度表明では、移転・改築が明らかになったあとの議会で、移転推進であった議員が「粉河駅南西に移転するには不安な点もあります。まず通学路であります。今度はほとんどの生徒は和歌山線の線路を越えての通学であり、開校までに安全な通学路ができることが望まれます」と述べています。

日本共産党議員団は、「全国では、通学路で重大な事故が発生し、通学路の緊急点検が実施され改善が進められています。粉河中学校の移転先は、通学路の確保にも多額の事業費がいることから、通学路の確保さえも難しいところです。そういう場所になぜ学校を設置しなければならないのか」と、設置に反対の意見を述べました。

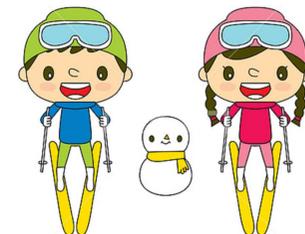


(岡田つとむ市議)

「雪のつどい」(障害児者スキーツアー)の準備始める。

先日、毎年3月下旬に開催している障害者スキー教室「雪のつどい」(主催 障害児者家族のつながり文化祭 雪のつどい実行委員会)のホテル予約しました。1976年に、「障害を持つ生徒たちに、あの雪国でのスキーの体験をさせてみたい」と、和歌山県教職員組合和教組障害児学部の企画で、第1回が開催された「雪のつどい」は、来年で39回目を迎えます。障害児学校の児童・生徒、家族、教職員、地域のボランティアなどが参加しています。今年の3月は、84人が参加しました。いままで、最も多く参加者が多かったのは、1991年の16回雪のつどいで、192人の記録が残っています。

「雪のつどい」では、障害やスキー技術を考えスキー班を編制し、みんなが楽しく参加することができるように配慮しながら、ゆきあそび、スキー講習のほか、花火大会や交流会もしています。それらのことをとおして、技術の向上とたくさんの友だちをめざしています。



障害をもった娘さんに「スキーがしたい」とせがまれ、しぶしぶ参加したが、参加するうちにスキーにはまってしまふことになってしまったお父さん。中学1年生で参加した男の子が、感想として、「『雪のつどい』に参加して一番うれしかったことは、ほくと同じ班の人だけど、耳が不自由な人と話が通じたことです。たくさんの友達ができたことです。」「雪のつどい」が一年中で一番大切な家族行事です。などの声が寄せられています。

こんなに長く続けられてきたのは、「スキーがしたい」との強い要求とそれを支える多くの方々の援助のおかげです。

来年は、3月27日(木)夜出発、30日(日)夜帰着、志賀高原スキー場で開催します。ボランティアなど、援助していただける方は、ご連絡ください。

(貴志川町 H・Y)

北極星

発行連絡先

0736-22-7573

日本共産党紀の川市委員会



No.1

(紀北地区委員会内)